



▲マイクを持って金沢時代の波山を語る濱岸勝義さん、その右に荒川正明さん。写真左端は波山の孫にあたる村田あき子さん。



▲展示された波山作の徳利（金沢時代の作品）。

「波山にとって金沢は、本格的に陶芸の研究を始めた大切な場所」などと解説、大勢の来場者が熱心に聞き入りました。

陶聖・板谷波山先生を偲び

下館・時の会が『波山の夕べ』を開催

筑西市出身の陶芸家・板谷波山（明治5年～昭和38年、名誉市民・文化勲章受章者）の誕生日にあたる3月3日、アルテリオで、第3回『波山の夕べ』が開催されました。これは、波山について語りあおうと、市民グループ『下館・時の会』（会長＝木努さん）が毎年行っているもので、今年のテーマは『金沢の波山』。波山が石川県工業学校（現、石川県立工業高等学校）教諭として木彫や陶芸を教えていた時代（明治29年～36年）に焦点をあて、現在同校教諭で陶芸担当の濱岸勝義さんと波山研究の第一人者で出光美術館学芸員の荒川正明さんが、

映画『恋するトマト』公開決定

主演の大地康雄さんが市を訪問



「地元筑西市の皆さんに、ぜひ観ていただきたい」。2月20日、俳優の大地康雄さん（54歳）が市役所を訪れ、映画『恋するトマト クマインガバナー』公開を富山省三市長に報告しました。旧協和町などで撮影され、大地さん自らが企画・脚本・総指揮・主演などを務めた同映画は、茨城県で農業を営む主人公を通じ、現代農業の課題や重要性、国境を越えた愛などを描く作品。5月13日から県内映画館で公開される予定です。

火防ポスターで最優秀賞

村田小3年 大和田鈴奈さん



茨城県幼少年婦人防火委員会主催による『第23回火災予防ポスターコンクール』で、大和田鈴奈さんが小学生低学年の部で最優秀賞に輝き、2月21日、茨城県庁で同委員会会長の橋本知事より表彰されました。「火事になって大変だ！と、お母さんの驚いている様子を、インパクトを出すために色合いを工夫して描きました。受賞できるとは思ってなかったのでもっと嬉しいです」

暮らしを考え、まちを知りたい、みんなの広場

■近代陶磁器にみる東と西

5月21日(日)まで 月曜休館
 泉屋博古館分館〔港区六本木 TEL03(5777)8600〕
 入場料=一般520円 学生310円 未就学児無料
 内容=板谷波山『葆光彩磁珍花文花瓶』(国重要文化財)などの作品を展覧
 ◇講演会『板谷波山 大正時代の作風展開を中心に』
 4月29日(土)午後2時より
 講師=出光美術館学芸員 荒川正明氏

■所蔵品展『再興日本美術院の画家たち』

4月24日(日)まで 月曜休館
 茨城県天心記念五浦美術館〔北茨城市TEL0293(46)5311〕
 入場料=一般180円 高大生110円 小中生80円

■中丸三千繪 ソプラノ・リサイタル

4月22日(土)午後5時開演
 結城市民文化センターアクロス〔結城市TEL(33)2001〕
 入場料=S席7,000円 A席6,000円
 ※学生は各1,000円引

わが家のアイドル

1歳のお誕生おめでとう



木城 光稀くん
4月2日生(谷永島)



川田 桃叶ちゃん
4月4日生(西方)



宮田 結桜ちゃん
4月4日生(下中山)



米川 琴々呂ちゃん
4月5日生(茂田)



桜井 優真くん
4月6日生(下川島)



佐藤 成真くん
4月6日生(小栗)



齊藤 陽くん
4月8日生(伊佐山)



安藤 綾音ちゃん
4月9日生(旭町)



小倉 幸成くん
4月9日生(みどり町)



染谷 陽樹くん
4月9日生(幸町)



浅野 真央ちゃん
4月11日生(岡芹)



古橋 平雅くん
4月13日生(鷺島)



屋野 和樹くん
4月15日生(小栗)



鈴木 乙華ちゃん
4月16日生(小川)



高岡 莉菜ちゃん
4月16日生(幸町)



仲野 桜香ちゃん
4月18日生(関本上)



堀江 翔くん
4月19日生(玉戸)



小島 菜摘ちゃん
4月21日生(嘉家佐和)



酒寄 蘭ちゃん
4月21日生(岡芹)



浦井 愛莉ちゃん
4月22日生(小栗)



杉本 千絵莉ちゃん
4月22日生(荒町)



吉田 ひかりちゃん
4月22日生(門井)



飯島 麻加ちゃん
4月23日生(直井)



尾見 綾菜ちゃん
4月23日生(筑瀬)



塚田 奏多くん
4月23日生(細田)



渡邊 碧泉ちゃん
4月23日生(西方)



篠崎 ひかりちゃん
4月25日生(藤ヶ谷)



竹澤 廉太くん
4月25日生(木戸)



深見 桃花ちゃん
4月25日生(稲野辺)



岡村 翔洋くん
4月26日生(知行)



山中 太晃くん
4月26日生(海老ヶ島)



山本 一真くん
4月26日生(久地楽)



丸山 陽己くん
4月27日生(玉戸)



海老澤 幸来くん
4月28日生(三郷)



篠崎 優那ちゃん
4月28日生(桑山)

平成17年6月生まれのお子さんの写真を募集しています。写真の裏面に、①お子さんの氏名・生年月日・性別、②保護者の氏名・郵便番号・住所・電話番号を明記のうえ、4月28日(金)までに市広報広聴課広報係へ。応募者多数の場合は抽選といたします。

万感の思いを胸に 『仰げば尊し』

3月10日、市内の中学校で卒業式を挙げる。7校あわせて1,158人が、3年間の思い出を育んだ母校に別れを告げました。

関城中学校では174人が卒業。式典の最後で『仰げば尊し』を斉唱すると、感極まって涙する卒業生の姿が見られました。



田口ランデイさん (神奈川県)

「中学生の時にはコンクールに出す作文を書かされました。どうして私が選ばれたのかと先生に聞くと「あなたに興味があるから」と言われました。子どもは敏感だから分かっていきます。注目してくれるのを待っているのです。一生の財産は、その時々去感受できる『嬉しい、心から楽しい』という体験や記憶を持つこと。子どもにその体験をさせてあげるのが大人の役目であり、務めです。子どもが心から楽しいと思えることを、大人と一緒につくっていくと思います」



ひと

子どもは、ほめられるのを待っている 我が子だけでなく他の子もほめてあげよう

「小学校の学習発表会の時には、通常、クラスで勉強のできる子が良い役をやりまます。私は、舞台の後方で、しかも台詞が少ない『お山の杉の子』役です。終了した時に見知らぬお母さんから「台詞が2か所しか無かったけど、その間も工夫していましたね。良かったですよ」と、ほめられてとても嬉しかったのを覚えています。これが原因で、いつも『ぼーっと』していた私が、その後演劇クラブに入り6年生

の時には主演をやりました。この経験があるので、我が子の発表会にはクラスの子どもの良いところを見つけてはほめてやりまます」と語るのは、広告代理店、編集プロダクション、フリーライターなどを経て本格的な執筆活動を開始。2001年には第1回婦人公論文芸賞を受賞、直木賞候補にもなった田口ランデイさん。3月3日、母校の下館小学校で『勉強の苦手な私がなぜ作家になったか』と題する講演をしました。